

## 主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 咳薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a デキストロメトルファン臭化水素酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用して咳を抑える。
- b アスピリンは、血液を凝固しにくくさせる作用がある。
- c メキタジンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- d チペピジンヒベンズ酸塩は、タンパク質分解酵素で、体内で産生される炎症物質（起炎性ポリペプチド）を分解する作用がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 6 2】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

2錠中	
イブプロフェン	144 mg
エテンザミド	84 mg
ブロモバレリル尿素	200 mg
無水カフェイン	50 mg
乾燥水酸化アルミニウムゲル	66.7 mg

この解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a イブプロフェンは、プロスタグランジンの産生を抑制することで消化管粘膜の防御機能を高める。
- b エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが作用の中心となっている他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強い。
- c 乾燥水酸化アルミニウムゲルは、解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）による胃腸障害の軽減を目的として、配合されている。
- d 本剤は、出産予定日 18 週以内の妊婦については、服用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	誤

【問 6 3】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度で痛みがあり、ときにしびれがあるものの関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされるが、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等の理由で、胃腸が弱く下痢しやすい人には不向きとされる。

- 1 そけいかっけつとう  
疎経活血湯
- 2 じゅうみはいどくとう  
十味敗毒湯
- 3 さんそうにんとう  
酸棗仁湯
- 4 しんいせいはいとう  
辛夷清肺湯

【問 6 4】 次の表は、ある催眠鎮静薬に含まれている成分の一覧である。

3錠中	
プロモバレリル尿素	250 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	150 mg
ジフェンヒドラミン塩酸塩	25 mg

この催眠鎮静薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a プロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じる。
- b アリルイソプロピルアセチル尿素は、脳の興奮を抑え、痛覚を鈍くする作用がある。
- c 15歳未満の小児では、ジフェンヒドラミン塩酸塩により神経過敏や中枢興奮などが現れやすいため、使用は避ける。
- d 本剤は、少量であれば眠気を催しにくいため、それにより重大な事故を招くおそれはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正

【問 6 5】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度をめやすとしてやや消化器が弱いものに幅広く用いることができる。神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳症、更年期障害、血の道症、歯ぎしりに適すとされる。

- 1 荊芥連翹湯 けいがいれんぎょうとう
- 2 抑肝散加陳皮半夏 よくかんさん か ちん び はん げ
- 3 薏苡仁湯 よくい にんとう
- 4 驅風解毒湯 くふう げ どくとう

【問 6 6】 カフェインに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- b 副作用として動悸が現れることがあるため、心臓病のある人は、服用を避ける。
- c 妊娠中の摂取により、吸収されて循環血液中に移行したカフェインの一部は、血液-胎盤関門を通過して胎児に到達することが知られている。
- d 摂取されたカフェインは乳汁中には移行しないため、授乳期間中でも服用できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 6 7】 鎮暈薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アミノ安息香酸エチルは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている。
- b スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる作用を示す。
- c 無水カフェインは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として、配合されている。
- d ピリドキシン塩酸塩は、乗物酔いに伴う頭痛を和らげる作用が期待される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

【問 6 8】 小児の疳<sup>かん</sup>及び小児の疳<sup>かん</sup>を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 身体的な問題がなく生じる夜泣き、ひきつけ、疳<sup>かん</sup>の虫等の症状については、発達段階の一時的な症状と保護者が達観することも重要である。
- b 疳<sup>かん</sup>の原因としては、授乳後にげっぷが出なかつたり、泣く際に空気を飲み込んでしまうなどして、消化管に過剰な空気が入ることと関連づけられることもある。
- c 小児の疳<sup>かん</sup>を適応症とする漢方処方製剤として、小青竜湯<sup>しょうせいりゅうとう</sup>がある。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合でも、生後 3 ヶ月未満の乳児には使用しないこととなっている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問69】 次の表は、ある鎮咳去痰薬がい たんに含まれている成分の一覧である。

6錠中	
L-カルボシステイン	750 mg
クレマスチンフマル酸塩	1.34 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	30 mg
d l-メチルエフェドリン塩酸塩	75 mg
無水カフェイン	90 mg
セネガ乾燥エキス	36 mg

この鎮咳去痰薬がい たんに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a L-カルボシステインは、粘液成分の含量比を調整し痰たんの切れを良くする作用も示す。
- b クレマスチンフマル酸塩は、気道粘膜からの粘液の分泌を促進する作用を示す。
- c ジヒドロコデインリン酸塩は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示す。
- d 本剤は、15歳未満の小児へ使用してはいけない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 7 0】 鎮咳去痰薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジプロフィリンは自律神経系を介して気管支の平滑筋を弛緩させることにより、気管支を拡張させる。
- b ハンゲは中枢性の鎮咳作用を示す生薬成分として配合される場合がある。
- c セキサンはヒガンバナ科のヒガンバナ鱗茎を基源とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は、甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 7 1】 鎮咳去痰薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ノスカピンは、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがある。
- b マオウは、交感神経系への刺激作用によって、心臓血管系や、肝臓でのエネルギー代謝等にも影響が生じることが考えられる。
- c カンゾウを大量に摂取すると、偽アルドステロン症を引き起こすことがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問 7 2】 次の表は、ある強心薬に含まれている成分の一覧である。

4 粒中	
ゴオウ	2.0 mg
センソ	4.0 mg
ジンコウ末	4.0 mg
ガジュツ末	3.6 mg
ニンジン末	4.4 mg
ユウタン	0.4 mg
カンゾウ末	1.6 mg
オウレンエキス	0.6 mg
ロクジョウ末	1.0 mg

この強心薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ゴオウは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬である。
- b センソは、ウシ科のウシの胆嚢<sup>のう</sup>中に生じた結石を基原とする生薬である。
- c ロクジョウ末は、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺<sup>じや</sup>分泌物を基原とする生薬である。
- d 本剤は、口内で嚙<sup>か</sup>み砕いて服用する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤



【問 7 3】 高コレステロール改善薬に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）の異化排泄<sup>せつ</sup>を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用がある。
- b 大豆油不<sup>けん</sup>飽化物（ソイステロール）は、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。
- c ビタミンEは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされる。
- d ルチンは、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 7 4】 次の表は、ある貧血用薬に含まれている成分の一覧である。

1錠中	
溶性ピロリン酸第二鉄	79.5 mg
ビタミンC	50 mg
ビタミンE酢酸エステル	10 mg
ビタミンB <sub>12</sub>	50 µg
葉酸	1 mg

この貧血用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 本剤により、便が赤色になることがある。
- b ビタミンCは、正常な赤血球の形成を目的として配合されている。
- c ビタミンB<sub>12</sub>は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として配合されている。
- d 服用前後 30 分はタンニン酸を含む飲食物の摂取を控える。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

【問 7 5】 循環器用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 生薬成分であるコウカは、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ユビデカレノンは、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける。
- c ヘプロニカートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	正	正
4	誤	正	誤

【問 7 6】 50 歳女性、婦人病の症状に良い漢方処方製剤はないかドラッグストアに相談に来られた。状態や症状を確認したところ、体力は中等度以下でのぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの冷え性、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、不眠症があることがわかった。次の漢方処方製剤のうち、最も推奨すべきものはどれか。

- 1 桃核承気湯とうかくじょうきとう
- 2 加味逍遙散かみしやうようざん
- 3 温清飲うんせいいん
- 4 五積散ごしやくざん

【問 7 7】 次の表は、ある鼻炎用内服薬に含まれている成分の一覧である。

4 カプセル中	
プソイドエフェドリン塩酸塩	120 mg
フェニレフリン塩酸塩	10 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	8 mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.4 mg
グリチルリチン酸	45 mg
無水カフェイン	100 mg

この鼻炎用内服薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a プソイドエフェドリン塩酸塩は、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- b フェニレフリン塩酸塩は、鼻腔内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、配合されている。
- c クロルフェニラミンマレイン酸塩は、排尿困難や口渇、便秘等を生じさせることがある。
- d ベラドンナ総アルカロイドは、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

【問 7 8】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療機関でセレギリン塩酸塩等のモノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人は、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬の使用を避ける必要がある。
- b 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きのみを選択的に抑えるので、排尿困難の症状がある人、緑内障の診断を受けた人も問題なく使用できる。
- c 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、ブロメラインが配合されている場合がある。
- d メキタジンについては、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

【問 7 9】 次の表は、ある鼻炎用点鼻薬に含まれている成分の一覧である。

1 mL 中	
ナファゾリン塩酸塩	0.5 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	5.0 mg
ベンザルコニウム塩化物	0.2 mg
リドカイン	3.0 mg

この鼻炎用点鼻薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩は、過度に使用すると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が収縮して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b クロルフェニラミンマレイン酸塩は、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示す。
- c ベンザルコニウム塩化物は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み<sup>かゆ</sup>を抑えることを目的として、配合されている。
- d リドカインは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として、配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤

【問 8 0】 妊娠検査薬に関する次の記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

妊娠が成立すると、胎児（受精卵）を取り巻く絨毛細胞から（ a ）が分泌され始める。妊娠検査薬は、尿中の（ a ）の有無を調べるものであり、検体としては、（ b ）の尿が向いている。検査薬が（ c ）に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。

	a	b	c
1	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	起床直後	冷蔵庫内
2	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	就寝前	室温中
3	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	起床直後	室温中
4	エストラジオール	起床直後	室温中
5	エストラジオール	就寝前	冷蔵庫内

【問 8 1】 胃に作用する薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 消化薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- b スクラルファートはアルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- c 味覚や嗅覚に対する刺激作用による健胃成分として、乾燥酵母やカルニチン塩化物が配合されている場合がある。
- d 過剰な胃液の分泌を抑える作用を期待して、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンの働きを抑えるロートエキスやピレンゼピン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 8 2】 次の表は、ある胃腸薬に含まれている成分の一覧である。

6錠中	
トリメブチンマレイン酸塩	300 mg
ビオチンアスターゼ2000	120 mg
リパーゼAP6	45 mg
カンゾウ末	150 mg
ロートエキス	30 mg
炭酸水素ナトリウム	300 mg
沈降炭酸カルシウム	600 mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム（乾燥物換算）	240 mg

この胃腸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a トリメブチンマレイン酸塩は、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として配合されている。
- b 本剤の服用により母乳が出にくくなることがある。
- c 酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料等での服用は適当でない。
- d メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 8 3】 止瀉薬<sup>しや</sup>及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 木クレオソート<sup>もく</sup>は、殺菌作用のほか、局所麻酔作用もあるとされる。
- b ロペラミド塩酸塩は、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として用いられる。
- c 収斂成分<sup>れん</sup>を主体とする止瀉薬<sup>しや</sup>は、細菌性の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- d タンニン酸ベルベリンに含まれるベルベリンは、牛乳に含まれるタンパク質から精製された成分である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 8 4】 瀉下薬<sup>しや</sup>の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a マルツエキスは、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされている。
- b 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることにより、糞便中の水分量を減らす作用がある。
- c ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられている。
- d ヒマシ油は、瀉下薬<sup>しや</sup>としては比較的作用が穏やかなため、主に3歳未満の乳幼児の便秘に用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問 8 5】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常醗酵、痔の緩和に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。また、本剤を使用している間は、他の瀉下薬の使用を避ける必要がある。

- 1 苓桂朮甘湯りょうけいじゅつかんとう
- 2 六君子湯りっくんしとう
- 3 桔梗湯ききょうとう
- 4 麻子仁丸ましにんがん

【問 8 6】 胃腸鎮痛鎮痙薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a パパベリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すほか、胃液分泌を抑える作用もある。
- b オキセサゼインは、妊娠中や小児における安全性が確立されておらず、妊婦又は妊娠していると思われる女性、15歳未満の小児では、使用を避けることとされている。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- d 下痢に伴う腹痛については、胃腸鎮痛鎮痙薬を使用することが適当である。

- 1 (a、c)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (b、d)



【問 8 7】 <sup>かん</sup>浣腸薬及び駆虫薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して、炭酸水素ナトリウムが用いられる。
- b グリセリンが配合された<sup>かん</sup>浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるおそれがある。
- c サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d パモ酸ピルビニウムは、回虫に<sup>けいれん</sup>痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 8 8】 <sup>じ</sup>外用痔疾用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a <sup>じ</sup>痔に伴う<sup>かゆ</sup>痒みを和らげることを目的として、デカリニウム塩化物が配合されている場合がある。
- b ステロイド性抗炎症成分が配合された<sup>こう</sup>注入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。
- c メチルエフェドリン塩酸塩が配合された<sup>ざ</sup>坐剤は、交感神経系に対する刺激作用によって心臓血管系や肝臓でのエネルギー代謝等にも影響を生じることが考えられる。
- d <sup>じ</sup>痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、ジフェンヒドラミンが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 89】 痔疾用薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ジブカイン塩酸塩は、毛細血管を補強、強化して出血を抑える働きがある。
- b カルバゾクロムは、痔に伴う痛み・痒みを和らげることを目的として用いられる。
- c アルクロキサは、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して用いられる。
- d カイカクは、マメ科のエンジュの成熟果実を基原とする生薬で、主に止血効果を期待して用いられる。

- 1 (a、b)      2 (a、c)      3 (b、d)      4 (c、d)

【問 90】 点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。
- b 点眼後は、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができる。
- c ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすく、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されて、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、全ての製品で、装着したままの点眼は避けることとされている。
- d 正確に点眼するため、容器の先端を眼瞼（まぶた）に触れさせながら点眼する。

- |   | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 2 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 3 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

【問 9 1】 次の表は、ある眼科用薬に含まれている成分の一覧である。

15 ml 中	
アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）	3 mg
テトラヒドロゾリン塩酸塩	3 mg
グリチルリチン酸二カリウム	18 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	4.5 mg
コンドロイチン硫酸ナトリウム	15 mg

この眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アズレンスルホン酸ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている。
- b テトラヒドロゾリン塩酸塩は、肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用を示す。
- c コンドロイチン硫酸ナトリウムは、抗菌作用を目的に配合されている。
- d この眼科用薬を連用又は頻回に使用すると、異常なまぶしさを感じたり、かえって充血を招くことがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

【問 9 2】 消毒薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a オキシドール（過酸化水素水）は、一般細菌類、真菌に対する殺菌消毒作用を示すが、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。
- b ヨウ素系殺菌消毒成分は、外用薬として用いた場合でも、まれにショック（アナフィラキシー）のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。
- c マーキュロクロムは、ヨードチンキと混合すると不溶性沈殿を生じて殺菌作用が低下するため、ヨードチンキと同時に使用しないこととされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	誤	正	正
4	正	誤	誤

【問 9 3】 外皮用薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a エアゾール剤は、強い刺激を生じるおそれがあるため、目の周囲や粘膜（口唇等）への使用は避けることとされている。
- b ヒドロコルチゾン<sup>のう</sup>は、非ステロイド性抗炎症成分である。
- c 外皮用薬として用いられるポビドンヨードは、口腔咽喉薬<sup>くわう</sup>や含嗽薬<sup>そう</sup>として用いられる場合より高濃度で配合されているため、誤って原液を口腔粘膜<sup>くわう</sup>に適用しないよう注意する必要がある。
- d フェノール（液状フェノール）は、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、患部の化膿<sup>のう</sup>を防ぐことを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 9 4】 歯痛薬及び歯槽膿漏薬<sup>のう</sup>に含まれている成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺<sup>ひ</sup>させることによる鎮痛・鎮痒<sup>よう</sup>の効果を期待して、オイゲノールが配合されている場合がある。
- b 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して、銅クロロフィリンナトリウムが配合されている場合がある。
- c 歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、クロルヘキシジングルコン酸塩が配合されている場合がある。
- d 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、アラントインが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 9 5】 禁煙補助剤とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 妊婦又は妊娠していると思われる女性は、禁煙することが推奨されるので、積極的に禁煙補助剤を使用することが望ましい。
- b 禁煙補助剤を使用するニコチン置換療法は、ニコチンの摂取方法を喫煙以外に換えて離脱症状の軽減を図りながら徐々に摂取量を減らし、最終的にニコチン摂取をゼロにする方法である。
- c 咀嚼剤そしやくは、大量に使用しても禁煙達成が早まるものでなく、かえってニコチン過剰摂取による副作用のおそれがある。
- d アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬がい たん、鼻炎用薬じ、痔疾用薬等）との併用により、その作用を減弱させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	誤	正

【問 9 6】 滋養強壯保健薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ビタミン成分は、必要以上に多く摂取したからといって適用となっている症状の改善が早まるものではない。
- b ビタミンD主薬製剤は、赤血球の形成を助けるため、貧血の緩和に用いられる。
- c ビタミンB<sub>6</sub>主薬製剤は、目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状の緩和に用いられる。
- d アミノエチルスルホン酸(タウリン)は肝臓機能を改善する働きがあるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問 9 7】 漢方薬使用における基本的な考え方に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方薬はすべからく作用が穏やかで、副作用が少ないため、重篤な副作用が起きることはない。
- b 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- c 漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- d 漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 9 8】 生薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ブシは、鎮痛作用を示し、アスピリンと同様、胃腸障害の副作用を示す。
- b カッコンは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- c ブクリョウは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮<sup>けい</sup>瘧等の作用を期待して用いられる。
- d サイコは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 9 9】 消毒薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 消毒は物質中のすべての微生物を殺滅又は除去することである。
- b 日本薬局方に収載されているクレゾール石鹼液は、原液を水で希釈して用いられるが、刺激性が強いため、原液が直接皮膚に付着しないようにする必要がある。
- c エタノールは脱脂による肌荒れを起こしやすく、皮膚へ繰り返し使用する場合には適さない。
- d 次亜塩素酸ナトリウムは、有機塩素系殺菌消毒成分に比べ塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 1 0 0】 殺虫剤に含まれる次の成分のうち、アセチルコリンを分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害することにより、殺虫作用を示す正しいものの組合せはどれか。

- a プロボクスル
- b ペルメトリン
- c ダイアジノン
- d フェニトロチオン

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

## 医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 最新の情報を提供する必要があるため、毎月1回、定期的に改訂されている。
- b 重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載し、改訂された箇所を明示することとされている。
- c 販売名に薬効名が含まれているような場合でも、添付文書には、薬効名の記載を省略することができない。
- d 医療機関を受診する際には、使用した一般用医薬品の添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問102】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品は、効能・効果、用法・用量、起こり得る副作用等、その適正な使用のために必要な情報（適正使用情報）を伴って初めて医薬品としての機能を発揮するものである。
- b 添付文書や製品表示に記載されている適正使用情報は、薬剤師、登録販売者その他の医薬関係者が一般の生活者へ提供する情報のため、専門的・部分的なものである。
- c 一般用医薬品は、薬剤師、登録販売者その他の医薬関係者から提供された情報に基づき、一般の生活者が購入し、自己の判断で使用するものである。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、添付文書や製品表示の記載内容を的確に理解し、購入又は使用する生活者個々の状況に応じた、適切な情報提供を行うことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正



【問 1 0 3】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「使用上の注意」、「してはいけないこと」及び「相談すること」の各項目の見出しには、それぞれ統一された標識的マークが付されている。
- b 「してはいけないこと」には、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起こりやすくなる事項について記載されている。
- c 「相談すること」には、その医薬品を使用する前に、その適否について専門家に相談した上で適切な判断がなされるべき事項として記載されているが、その医薬品を使用した後に、副作用と考えられる症状を生じた場合等の対応については、記載されていない。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	誤	正	誤
3	正	正	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

【問 1 0 4】 安全性速報に関する次の記述について、( )の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

医薬品、医療機器又は再生医療等製品について一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に、( a )からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。( b )による医薬品医療機器情報配信サービスによる配信、製造販売業者から医療機関や薬局等への直接の配布、ダイレクトメール、ファクシミリ、電子メール等による情報提供(1か月以内)等により情報伝達されるものである。A4サイズの印刷物で、( c )とも呼ばれる。

	a	b	c
1	各都道府県	厚生労働省	イエローレター
2	各都道府県	(独)医薬品医療機器総合機構	イエローレター
3	厚生労働省	(独)医薬品医療機器総合機構	レッドレター
4	厚生労働省	各都道府県	ブルーレター
5	厚生労働省	(独)医薬品医療機器総合機構	ブルーレター

【問105】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 抗ヒスタミン薬を服用した際の眠気のように薬理作用から発現が予測され、容認される軽微な症状の持続又は増強がみられた場合には、使用を継続しつつ専門家に相談するよう記載されている。
- b 一般用医薬品の添加物として配合されている成分は、医薬品医療機器等法の定めではなく、製薬企業界の自主申し合わせに基づいて記載されている。
- c 一般用検査薬では、検査結果が陰性であっても何らかの症状がある場合は、再検査するか又は医師に相談する旨等が記載されている。
- d 一般用医薬品を使用した際に生じる軽微な症状のうち容認されるものについては、「次の症状が現れることがある」として記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問106】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後2年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はないが、流通管理等の便宜上、外箱等に記載されるのが通常となっている。
- b 医薬品によっては添付文書の形ではなく、「用法、用量その他使用及び取扱い上必要な注意」の記載を外箱等に行っている場合がある。
- c 購入者によっては、購入後すぐに開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。
- d 外箱等は記載スペースが限られることから、添加物として配合されている成分の記載については、アレルギーの原因となり得ることが知られているもの等、安全対策上重要なものを記載し、「(これら以外の)添加物成分は、添付文書をご覧ください。」としている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

【問 1 0 7】 添付文書に記載されている「保管及び取扱い上の注意」に関する次の記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

可燃性ガスを噴射剤としているエアゾール製品や消毒用アルコール等、危険物に該当する製品における( a )に基づく注意事項や、エアゾール製品に対する( b )に基づく注意事項については、それぞれ法律上、その( c )への表示が義務づけられているが、添付文書において「保管及び取扱い上の注意」としても記載されている。

	a	b	c
1	ガス事業法	高圧ガス保安法	容器
2	消防法	毒物劇物取締法	被包
3	消防法	高圧ガス保安法	容器
4	高圧ガス保安法	消防法	被包
5	毒物劇物取締法	ガス事業法	容器

【問 1 0 8】 医薬品 P L センターに関する次の記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

医薬品 P L センターは、日本製薬団体連合会において、平成 7 年 7 月の製造物責任法 ( P L 法 ) の施行と同時に開設された。

消費者が、医薬品または医薬部外品に関する苦情 ( 健康被害以外の損害 ( a ) ) について ( b ) と交渉するに当たって、公平・中立な立場で申立ての相談を受け付け、交渉の仲介や調整・あっせんを行い、( c ) な解決に導くことを目的としている。

	a	b	c
1	も含まれる	国	裁判によらずに迅速
2	も含まれる	製造販売元の企業	裁判によらずに迅速
3	も含まれる	国	裁判による法的
4	は含まれない	製造販売元の企業	裁判による法的
5	は含まれない	国	裁判による法的

【問 1 0 9】 医薬品医療機器等法に規定する副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度は、医薬品の使用、販売等に携わり、副作用等が疑われる事例に直接に接する医薬関係者からの情報を広く収集することによって、医薬品の安全対策のより着実な実施を図ることを目的としている。
- b 登録販売者は、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に基づく報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- c 薬局開設者、医療施設の開設者、医薬品の販売業者又は医師、歯科医師、薬剤師その他の医薬関係者（登録販売者を含む。）は、製造販売業者等が行う情報収集に協力するよう努めなければならないこととされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	正	誤

【問 1 1 0】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づく医薬品の副作用等報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 身体の変調・不調、日常生活に支障を来す程度の健康被害（死亡を含む。）であっても、医薬品との因果関係が必ずしも明確でない場合は、報告の対象となり得ない。
- b 安全対策上必要があると認められるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害について報告がなされる必要がある。
- c 報告期限は特に定められていないが、報告の必要性を認めた場合においては、適宜速やかに報告書を（独）医薬品医療機器総合機構に送付することとされている。
- d 報告者に対しては、安全性情報受領確認書が交付される。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 1 1 1】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の給付の種類のうち、請求期限がないものはどれか。

- 1 医療費
- 2 医療手当
- 3 障害児養育年金
- 4 遺族一時金
- 5 葬祭料

【問 1 1 2】 医薬品副作用被害救済制度の救済給付の支給対象範囲に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 医薬品副作用被害救済制度は、医薬品を適正に使用したにもかかわらず、副作用によって一定程度以上の健康被害が生じた場合に、医療費等の諸給付を行うものである。
- b 医薬品の効果があまりなかったことから、添付文書に記載されている用量を超える量を服用したが、用法どおりに服用したことから救済給付の対象となる。
- c 救済給付の対象となる健康被害の程度としては、副作用による重い後遺障害（日常生活に著しい制限を受ける程度以上の障害。）が残った場合のみである。
- d 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であっても、特に医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度のものについては給付対象に含まれない。

- 1 (a、b)      2 (a、d)      3 (b、c)      4 (c、d)

【問 1 1 3】 次の医薬品のうち、適正に使用した場合に医薬品副作用被害救済制度の対象とされているものはどれか。

- 1 日本薬局方白色ワセリン
- 2 一般用検査薬
- 3 殺虫剤
- 4 人体に直接使用する殺菌消毒剤

【問 1 1 4】 医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「6・26 国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日から7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- b 薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）によるものばかりでなく、一般用医薬品によっても生じ得る。
- c 保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年10月17日～23日の1週間を、「薬と健康の週間」として、広報活動やイベント等が実施されている。
- d 薬物乱用防止に関する啓発は、小中学生に対して行うと、かえって違法薬物に対する好奇心を刺激することになるため、高校生以上から行うこととされている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

【問 1 1 5】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項に記載することとされている事項に関する組合せの正誤のうち、正しい組合せはどれか。

	アレルギー既往歴等	成分等
a	ぜんそくを起こしたことがある人	－ ブチルスコポラミン臭化物
b	鶏卵によりアレルギー症状を起こしたことがある人	－ リゾチーム塩酸塩
c	牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人	－ カゼインナトリウム
d	フェノフィブラートを含有する高脂血症治療薬によるアレルギー症状を起こしたことがある人	－ ロペラミド塩酸塩

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 6】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項に記載することとされている事項に関する組合せの正誤のうち、正しい組合せはどれか。

	医薬品成分等		基礎疾患等
a	芍薬甘草湯 <sup>しやくやくかんそうとう</sup>	－	高血圧
b	ブソイドエフェドリン塩酸塩	－	心臓病
c	合成ヒドロタルサイト	－	透析療法を受けている人
d	ジフェンヒドラミン塩酸塩	－	糖尿病

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 7】 次の医薬品成分のうち、眠気、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項に、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載されるものはどれか。

- 1 テオフィリン
- 2 スコポラミン臭化水素酸塩水和物
- 3 ケトプロフェン
- 4 センノシド
- 5 スクラルファート

【問 1 1 8】 次の医薬品成分のうち、長期連用によりアルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項に、「長期連用しないこと」と記載されるものはどれか。

- 1 次硝酸ビスマス
- 2 タンニン酸アルブミン
- 3 セミアルカリプロティナーゼ
- 4 アルジオキサ

【問 1 1 9】 次の表は、ある乗物酔い防止薬に含まれている成分の一覧である。

この乗り物酔い防止薬を使用できない、または「服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください」とされる人に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

1錠中	
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	40 mg
ジプロフィリン	26 mg
添加物	
タルク、トウモロコシデンプン、乳糖	
カルメロース Ca、硬化油、酸化チタン	
ステアリン酸 Ca、セルロース、ヒプロメロース	
マクロゴール、無水ケイ酸	

- a てんかんの診断を受けた人
- b 前立腺肥大症の診断を受けた人
- c 甲状腺機能障害の診断を受けた人
- d 緑内障の診断を受けた人

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	正	正

【問 1 2 0】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

6錠中	
イブプロフェン	600 mg
トラネキサム酸	750 mg
プソイドエフェドリン塩酸塩	135 mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	3.5 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	24 mg
L-カルボシステイン	750 mg
無水カフェイン	75 mg

次のうち、このかぜ薬の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は服用しないこと」の項目欄に記載されている事項として正しいものはどれか。

- 1 高齢者
- 2 緑内障と診断を受けた人
- 3 前立腺肥大による排尿困難
- 4 激しい腹痛又は吐気・嘔吐の症状がある人







